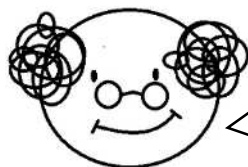
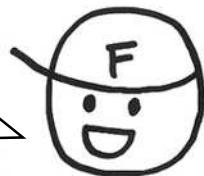


さか 府中の坂



うえ しゃしん まい
上の写真2枚：
ひ ふちゅう
『あの日の府中
ふちゅうしせいしこう
府中市制施行55
しゅうねん きねんしゃしん
周年記念写真
しゅう
集』より

うえ まい しゃしん ふうけい み きおく
上の2枚の写真の風景、どこかで見た記憶があるんだけど・・・、
どこだろう？真ん中の大きな木とか・・・。
そうか、いま しもがわらりょくどう
そうか、今の下河原緑道だ！



ひだり しょうわ ごろ みぎ しょうわ ごろ しゃしん
左は昭和2(1927)年頃、右は昭和30(1955)年頃の写
下 しゃしん しゃしん
真で、下の写真は令和7(2025)年の写真なんだ。
ひだりがわ み さか いま かしまざか いま のこ
その左側に見える坂は今もある「鹿島坂」だよ。府中には今も残
さか こんかい さか ぶ み
っている坂があるんだ。今回はこれらの坂の一部を見てみよう。

白明坂（しらみざか） 武蔵台2丁目

府中市の北に位置する都立小児総合医療

センターの西側、国分寺市や国立市との境に

ある坂道を「白明坂」と言います。この坂は

「見返り坂」とも呼ばれ、市内を南北に通る大

きな道である新府中街道の西側にあります。

夜が明ける前、空がうっすら白くなることを

「白明（しらみ）」と言います。元弘3（1333）

年5月に新田義貞*1と北条泰家が戦った時に、

義貞が分倍河原に攻めこもうとして、この坂まで馬で走ってきたところ、ここで夜が明けて

しまった、という話からこの坂を「白明坂」と呼ぶようになったとされています。



*1 新田義貞については、こども府中はかせ9『府中の街道』を見てね！



「白明坂」の東側には、都立小児総合

医療センターをはじめ、都立神経病院な

ど医療機関が集まっています。また、こ

の坂の地形は、市内では唯一の立川段丘*2

から武蔵野段丘へ上るところにあります。

*2 段丘

川や海が土地を削ったり、地面が持ち上がった
りしてできた段になっている地形。多摩川が作
った大きな段丘を立川段丘と言います。この
立川段丘が府中市の大部分を占めます。それよ
り一段上がったところにあり、多摩川や荒川が
作った、大きくて高い段丘を武蔵野段丘と言
います。



した み あ しら み ざか
下から見上げた白明坂

さか しん ぶ ちゅうかいどう あいだ しら み ざかりよくち
この坂と新府中街道の間に白明坂緑地という

りよくち さん ぼ
緑地があり、小さな子どもたちのお散歩コース

になっています。

上坂（かみさか） 西府町 1 丁目

こうしゅうかいどう なん ぶ せん こう さ にし ぶ ばし
甲州街道と南武線が交差する西府橋から

みなみ む お きゅうこうばい さかみち
南へ向かって下りていくと急勾配な坂道

があります。この坂を「上坂」と言います。

さか か な がわけん おおやま
この坂は、神奈川県にある大山につながる

おおやまどう いち ぶ さか なまえ
大山道^{*3}の一部となっています。坂の名前

ゆらい あき
の由来は明らかではありませんが、むかし、

あた むら さか たまがわ そ じょうりゅう かみ なか しも わ せつ さか
この辺りにあった村の坂を多摩川に沿って上流から上・中・下に分けたという説や、坂を

にしがわ かみ なか しも わ なづ せつ
西側から上・中・下に分けて名付けたという説があります。



した み あ かみさか
下から見上げた上坂

おおやまどう
*3 大山道

西府町から南武線に沿う形で、
南北に延びる道。古くから雨乞
いのために信仰された大山に向
かう参拝者が通った道だったこ
とが名前の由来です。

中坂（なかさか） 本宿町 1 丁目

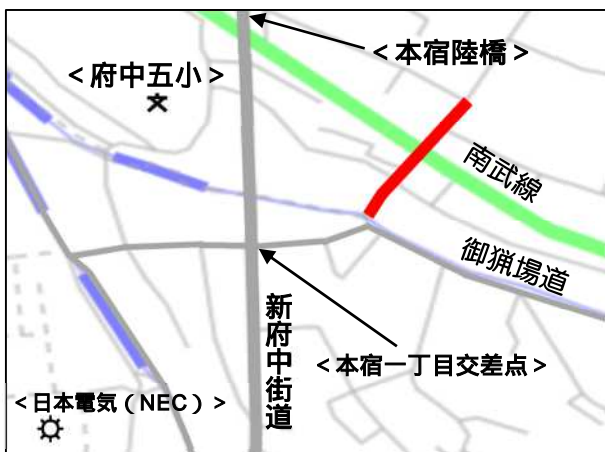
府中第五小学校の東側を南北に走る坂道を「中坂」と言います。この坂は、府中第五小学校の正門前辺りから始まって右にカーブしながら続いており、かなり急な坂道となっています。こちら名前の由来は明らかにはなっていませんが、「上坂」で説明したように、むかしこの辺りにあった村の坂の中で、真ん中にあったからではないかと言われています。



下から見上げた中坂

清水坂（しみずさか） 美好町 3 丁目・本宿町 1 丁目

本宿トンネルを南へ抜けると、「本宿一丁目」交差点があります。ここを東に向かって少し行くと、左側に比較的なだらかな坂道があります。この坂道を「清水坂」といいます。名前の由来は坂道の両側から清水がわき出していたからとされています。また、この「清水坂」が「下坂」にあたるのではないかとされています。



南武線の辺りから見下ろした清水坂

鹿島坂（かしまざか） 本町2丁目・宮西町5丁目

府中街道から少し離れた西側に、

府中市の中心辺りを南北に通って

いる道があります。この道は「下

河原緑道」と呼ばれ、下河原鉄道

跡を利用して作られた緑道です。

この道の東側に、鎌倉街道から

旧甲州街道の間を、下河原緑道

に沿うように通っている坂道があります。この坂道が「鹿島坂」です。この坂の名前の由来

は、大國魂神社の例大祭「くらやみ祭」の時に行われる神事「国造代奉幣式^{*4}」にあると

言われています。「国造代奉幣式」は5月5日に坪宮^{*5}（本町2丁目12番地）で行わ

れます。

神事が終わると、坪宮に面している坂道（現在の鹿

島坂）を上って、旧甲州街道を東に進み、次の神事

に向かいます。むかし、この「国造代奉幣式」で社家^{*6}

の鹿島田家が大きな役割を果たしていたことから、この

坂道は「鹿島田坂」と呼ばれるようになり、その後坂の

名前の一部をとって「鹿島坂」と呼ばれるようになった

ようです。



^{*4} 国造代奉幣式
神職が神馬に乗り、坪宮に赴いて神輿渡御が終わったことを奉告（神様に報告すること）する神事。

^{*5} 坪宮
大國魂神社の境内の外にある末社。初代の武蔵国の国造、兄多毛比命を祀っていることから、国造神社とも呼ばれています。

^{*6} 社家
むかしにあった身分で、代々特定の神社に仕えてきた家や家族のこと。

この坂は「八ヶ^{さか}*7」下と「八ヶ^{した}」上^{うへ}を繋いでい

る道^{みち}です。鎌倉街道^{かまくらかいどう}から北^{きた}に向かってすぐの^むとこ

*7八ヶ

多摩川^{たまたがわ}によって削^{けず}られてできた高^{たか}さが約^{やく}5から7メートルほどの^{がけ}崖^{がけ}。

ろにある坪宮^{つぼのみや}から、旧甲州街道^{きゅうこうしゅうかいどう}まで続^{つづ}いています。



坪宮^{つぼのみや}辺り^{あた}から見た鹿島坂^{かしまざか}

鎌倉街道^{かまくらかいどう}側^{がわ}から見て、坪宮^{つぼのみや}辺り^{あた}からしばらくの間^{あいだ}、

西側^{にしがわ}を通^{しよ}っている下河原緑道^{しもがわりよくだう}と比べると「鹿島坂^{かしまざか}」

は一段低^{いちだんひく}くなっています。そのため、「鹿島坂^{かしまざか}」は下^{しも}

河原緑道^{がわりよくだう}よりも急^{きゅう}な斜面^{しゃめん}を上^{のぼ}りますが、南武線^{なんぶせん}の上^{うえ}

を通^{とほ}る辺り^{あた}で一度同^{いちどおな}じ高^{たか}さになります。その後^ご、下^{しも}

河原緑道^{がわりよくだう}よりもまた少^{すこ}し低^{ひく}くなりますが、旧甲州^{きゅうこうしゅう}

街道^{かいどう}で再^{ふたた}び同^{おな}じ高^{たか}さになります。

御殿坂（ごてんざか） 本町1丁目

府中市^{ちゅうしんぶ}の中心部^{いち}に位置^ふする府中本町駅^{ふちゅうほんまちえき}から、大國魂神社^{おおくにたまじんじや}に向^むかって東^{ひがし}に下^{くだ}って行^いくと、

大^{みち}きな道^{ふちゅうかいどう}である府中街道^つに突^つきあたります。ここを右^{みぎ}に曲^まがった辺り^{あた}から、南^{みなみ}に向^むかって

競馬場^{けいばじょうどお}通り^{つづ}まで続^{つづ}いている坂道^{さかみち}を「御殿坂^{ごてんざか}」と言^いいます。坂^{さか}の名^な前は徳川^{とくがわ}将軍家^{しょうぐんけ}の「府中^{ふちゅう}

御殿^{ごてん}」に由^ゆ来^{らい}します。



ふ ちゅう ご てん げんざい あた げんざい
府 中 御 殿 は 現 在 の 本 町 1 丁 目 14 番 地 の 辺 り (現 在 の

こくしのたち いえやすごてん し せきひろ ば い
「 国 司 館 と 家 康 御 殿 史 跡 広 場 *8 」 に あ っ た と 言 わ れ て

てんしょう た とくがわいえやす
い ます 。 天 正 18 (1590) 年 に 建 て ら れ 、 徳 川 家 康 が

たか が あゆりょう き しゅくはく
鷹 狩 り *9 や 鮎 漁 な ど で 府 中 へ 来 た と き に 宿 泊 し て い

い え や す おうしゅう いま とうほくち ほう
た そ う で す 。 ま た 家 康 は 、 奥 州 (今 の 東 北 地 方) で の

たたか かえ とちゅう とよとみひでし ふ ちゅう ご てん
戦 い か ら 帰 る 途 中 の 豊 臣 秀 吉 を 、 こ の 府 中 御 殿 で も

い いえやす な い
て な し た と 言 わ れ て い ます 。 家 康 が 亡 く な る と 、 そ の 遺

たい く のうざん しずおかけん にっこう とちぎけん うつ
体 を 久 能 山 (静 岡 県) か ら 日 光 (栃 木 県) へ 移 す と き

いえやす たか が おこな ち いっこう
に 、 家 康 が 鷹 狩 り を 行 っ た 地 を な ぞ る よう に そ の 一 行

た よ ご てん せいだい ほうよう おこな
が 立 ち 寄 り 、 こ の 御 殿 で も 盛 大 な 法 要 が 行 わ れ た そ う で す 。



さか した み あ ゆる ぶ ぶん ご てん ざ か
坂 の 下 か ら 見 上 げ た 緩 や か な 部 分 の 御 殿 坂

こくしのたち いえやすごてん し せきひろ ば
*8 国 司 館 と 家 康 御 殿 史 跡 広 場

あすかじだい なら じだいぜん き
飛 鳥 時 代 か ら 奈 良 時 代 前 期

いま やく
(今 か ら 約 1300 年 か ら

1250 年 ぼ ど 前) の 国 司 館

あと あづちもやま じだい え ど
跡 と 、 安 土 桃 山 時 代 か ら 江 戸

じだいぜん き いま
時 代 前 期 (今 か ら 430 年 ぼ

ど 前) の 徳 川 将 軍 家 の 府 中

ご てん あと はくつ
御 殿 跡 が 発 掘 さ れ た 府 中 市 の

れきし しょうちょう ば しょ
歴 史 を 象 徴 す る 場 所 で す 。

こ だ い む さ し こ く ぶ こ く し の た ち と く が わ
古 代 武 蔵 国 府 の 国 司 館 と 徳 川

いえやす ご てん バーチャルリアリティ い ぞ う
家 康 御 殿 を V R 映 像 で

み 見 る こ と が で き ます 。

たか が
*9 鷹 狩 り

とくべつ くんれん つか
特 別 に 訓 練 し た タ カ を 使 っ て

ツル や ウ サ ギ な ど を 捕 ま え さ

でん とう て き か
せ る 伝 統 的 な 狩 り 。

ふ ちゅう ご てん しょうほう ふ ちゅう
府 中 御 殿 は 、 正 保 3 (1646) 年 の 府 中

たい か しょうしつ ご さいけん
大 火 で 焼 失 し て し ま い 、 そ の 後 再 建 さ れ る

こ と は あ り ま せ ん で し た 。 し か し 、 「 御 殿 」

な ま え ち め い さ か な ま え こ の こ
の 名 前 は 地 名 や 坂 の 名 前 と し て そ の 後 も 残

り ま し た 。

天地の坂（てんちのさか） 八幡町 1 丁目・2 丁目

とうきょうけいばじょう きたがわ した とお
東京競馬場の北側、「八ヶ」下を通っ

みち けいばじょうどお よ みち
ている道は競馬場通りと呼ばれる道です。

みち そ しない どうざい
この道は「八ヶ」に沿って市内を東西に

とお みち きたがわ
通っています。この道の北側にちゅうバスの

てい けいばはくぶつかん
のバス停「競馬博物館」があります。この

てい にし い きた む
バス停から少し西に行くと、北に向かって

のぼ みち みち はい
上っていく道があります。この道に入って



ひだりがわ む みち そ にし すす ごけいおうせん ふちゅうけいばせいもんまえ えき なんと
すぐ左側に向かい「八ヶ」に沿って西に進み、その後京王線「府中競馬正門前」駅の南東

あた きた む みち さかみち てんち さか
回りまで北に向かう道があります。この坂道が「天地の坂」です。



したがわ み てんち さか
八ヶ下側から見た天地坂

さか そ した あた のぼ なが さかみち
この坂は「八ヶ」に沿いながら、「八ヶ」下の回りから上っていく長い坂道です。むかし、

あた わ みず おお おおくにたまじんじゃ
この回りは湧き水が多くあったので、ワサビ田や田んぼがたくさんありました。大國魂神社

ごくうでん した あた とうきょうけいばじょう ほうせい ちゅうしゃじょうあた
の御供田*¹⁰も、むかしは「八ヶ」下のこの回り(東京競馬場の北西にある駐車場回り)

にありました。

*¹⁰ごくうでん じんじゃ そな こめ つく
御供田 神社にお供えするお米を作る田んぼ。

そのためか、昭和の初め頃まで、水の流れを利用して脱穀や精米などを行うための水車

が「八ヶ」下にはたくさんあったそうです。そしてその中に屋号*11を「天地」として水車

業を営む人がこの辺りに住んでいました。「天地」

とは、この辺りのむかしの呼び方である「天神下」

が変化したものだと言われています。この「天地」

の水車の近くにある坂道だったため、「天地の坂」

と呼ばれるようになったようです。

*11 屋号

現在では商売をやっている家や役者などの家名(家の呼び名)や称号のこと。しかし、むかしは農家などのほかの人達も、屋号を使っていました。江戸時代、農家などの人達は苗字を名乗ることができなかったの
で、他の家と区別するために苗字の代わりに屋号で呼んでいました。

かなしい坂(かなしいさか) 清水が丘3丁目

京王線の「多磨霊園」駅から

東郷寺通りを下り、東郷寺の北

側の脇道を進んだところに、静

かな住宅街があります。この

住宅街にある坂道が、「かなし

い坂」です。この坂には、名前



のとおりかなしい話が伝わっています。話の中心になるのは、玉川上水*12です。

*12 玉川上水については、こども府中はかせ14『府中の用水』を見てね!





下から見上げたかなしい坂

たまがわじょうすい やわたした げんざい しみず おか
玉川上水は、はじめ府中の八幡下（現在の清水が丘

など）辺りから掘り起こして、多磨霊園駅付近を通過して

水を引き入れる工事をしていました。しかし、この坂の

辺りで地面に川の水がしみ込んでしまい、工事は失敗し

てしまったと言われています。この工事の責任を問われ

た役人が「かなしい」と言ったという話が、この坂の

名前の由来と言われています。そして、この時に作られたものではないかといわれる堀が「む

だ堀」（別名「新堀」「オッポリ」など）の名前で残っています。また、古い地名でこの辺り

を「金尻」と言ったので、それがなまって、「かなしい坂」と呼ばれるようになったとも言

われています。この名前のためか、結婚式などの冠婚葬祭のときにはこの道を通らない、と

いう話も伝わっています。

まむし坂（まむしざか） 小柳町3丁目

「多磨霊園」駅の東側から東郷寺に

続いている道は、東郷寺通りと呼ばれて

います。東郷寺から見てこの道の東側

にあるいかだ道（いききの道）*13を東

に進み、小柳橋を渡ると、右手に府中

第九中学校が見えてきます。



*13 いかだ道（いききの道）については、こども府中
はかせ12『府中の道』を見てね！



そのまま直進すると、西武多摩川線の線路があり、踏切を渡ったすぐ脇に、細い坂道があります。この坂がまむし坂です。

むかし、マムシ^{*14}などの爬虫類が多く生息していたので、このように呼ばれるようになったと言われています。この場所は、「ハケ」沿いで湧き水などもあり、湿った場所だったので、

^{*14}マムシ
日本固有種の毒ヘビで、山地や藪の中、田畑にすみ、水場のまわりでみかけることが多い。

爬虫類なども多かったのだろーと言われていす。また、当時この辺りには田んぼがあったため、この辺りで田植えなどの仕事をする人もいました。マムシに襲われるかもしれない、とおびえながら作業をする人々に注意を呼び掛けるために「まむし坂」という名前をつけたのではないかと、とも言われています。



上から見たまむし坂



下から見上げたまむし坂

このまむし坂を名前の由来としたサッカーチームがあります。「小柳小まむし坂サッカークラブ^{*15}」です。エンブレムにもマムシがデザインされています。

^{*15} 小柳小まむし坂サッカークラブ : <https://mamushizaka.com> (2026年3月31日確認)

おっぼり坂（おっぼりざか） 白糸台5丁目

府中市の東部にある車返団地は、東西に広がって建っています。この団地の間を南北へとまっすぐ通っている道があり、この道を白糸台通りと言います。この通りの東側、いかだ道（いききの道）と京王線の線路の間に、ゆるやかに曲がりながらも通りに沿うようにして北へ上っていく



坂があります。この坂を「おっぼり坂」と言います。



ハケ上から見たおっぼり坂

辺りには「大堀下」と呼ばれた地名もありました。

この坂の名前は、むかし大雨が降った時に、水の流れによって自然に掘られた「大堀」に由来すると言われています。この坂ははじめ「おおぼり坂」と呼ばれていましたが、いつからか「おっぼり坂」と呼ばれるようになりました。また、「大堀」の名前が由来となったのでしょうか、むかしこの

はけた坂（はけたざか） 白糸台5丁目

府中市の最東部に位置する南白糸台

小学校の正門前の道を北へ進むと、府中

市内を東西に通るいかだ道（いききの道）

があります。このいかだ道から北側にあ

る京王線の踏切手前までのゆるやかな坂

を「はけた坂」といいます。



はけた坂を上り切る手前辺り



はけた坂が上り始める辺り

むかしからこの辺りは「はけた」と呼ばれていました。

「はけた」という名前は、近くにある崖を「ハケ」と呼ぶことに由来しています。「ハケ」を上り下りする道な

ので、ここを「はけた道」ともいい、「ハケの道」・「ハ

ケの坂」とも言われています。「ハケ」沿いには古い街

道があります。道を行ったり来たりするという意味で、

「いききの道」として親しまれていますが、この辺りで

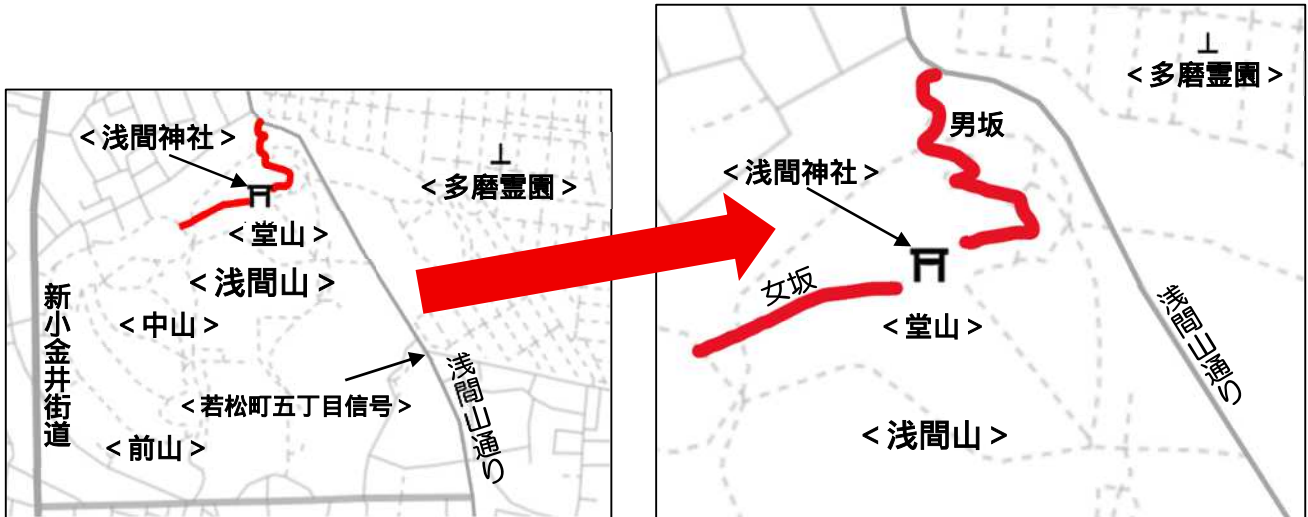
はこの道のことも「はけた道」と呼んでいたようです。

この坂の途中には健御名方神を祭神とする諏訪神社

があり、坂の由来碑はここに 있습니다。

男坂・女坂（おとこざか・おんなざか） 若松町5丁目

府中市の北東側にある浅間山には、男坂と女坂があります。お寺や神社などの参道では、おたがいに向かい合うような二つの坂がよくあります。傾斜が急だったり険しかったりする方を「男坂」、傾斜が緩い方を「女坂」と言います。



全国にはこのような「男坂」・「女坂」がいくつかありますが、「男山」・「女山」のように、坂以外にも使われています。有名なところでは、高尾山の男坂・女坂や日光(栃木県)の男体山・女峰山もこの由来からきているようです。

浅間山は標高80メートルほどで、前山・

中山・堂山の3つの山からなっています。

堂山の山頂に浅間神社があります。この浅

間神社に向かって北側から登る坂を男坂と

言い、舗装されていない山登りの道です。

男坂の登りはじめは、「若松町五丁目」信号

から浅間山通りを北に350mほど行くとあ



上から見た男坂

ります。坂の周りには木が多く生えていて、葉が

生い茂った道が、蛇行するように続きます。

男坂の由来碑は、浅間山の北側のふもとの男坂が

始まる辺りにあります。浅間神社を南側から登る

急な階段があります。このすぐ脇を並走している

道も「男坂」と呼ばれています。



男坂の由来碑



下から見上げた女坂

浅間山では、ムサシノキスゲという、4月下旬

から5月上旬頃に咲く、ユリ科の植物が見られ

ます。この植物は、浅間山だけに生えていて、

黄色の美しい花を咲かせて、良い香りがする特徴

があります。見頃の時期に合わせて、キスゲフェス

ティバルが開かれ、多くの人々がムサシノキスゲを見

に訪れます。

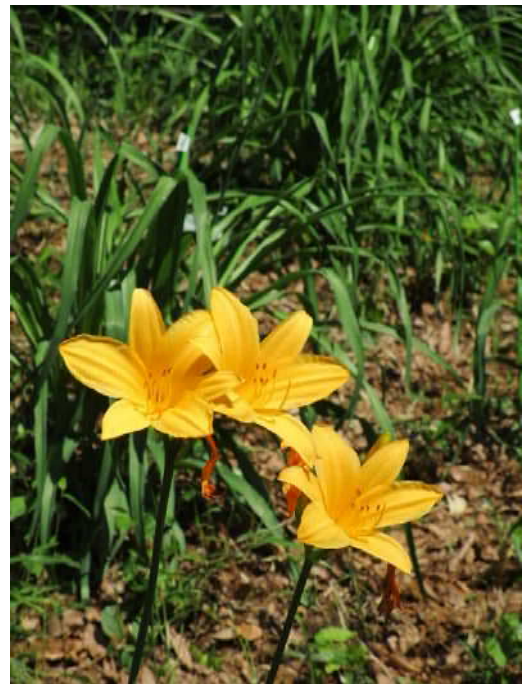
浅間神社に向かって西側から登る道が女坂です。女坂

は男坂と違い、ほぼまっすぐの坂で、整備された山道で

す。登っていくにつれて少し急にはなりますが、全体的

にはなだらかな道で、すぐに山頂にたどり着きます。女

坂の由来碑は、登りはじめの辺りにあります。



ムサシノキスゲ

(2025年6月頃撮影)

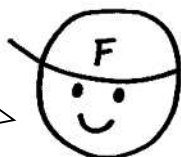


もっと知りたくなったら読む本のリスト

しよめい ほん なまえ 書名 (本の名前)	ちよしゃ ほん か ひと 著者 (本を書いた人)	しゅっぱんねん 出版年	ほん せ 本の背ラベル
ふ ちゅう し きょう ど もりはくぶつかん きょう だい ごう 府中市郷土の森博物館紀要 第25号	ふ ちゅう し きょう ど もりはくぶつかん へんしゅう 府中市郷土の森博物館 / 編集	2012	F051/10/7
あるむぜお だい ごう 第113号 ふ ちゅう し きょう ど もりはくぶつかん 府中市郷土の森博物館だより	ふ ちゅう し きょう ど もりはくぶつかん へんしゅう 府中市郷土の森博物館 / 編集	2015	F069/10/7
とくへつてん かつせんでんせつ 特別展 合戦伝説 にっ た よし さだ ぶ ばい が わら か つ せん 新田義貞と分倍河原合戦	ふ ちゅう し きょう ど もりはくぶつかん へんしゅう 府中市郷土の森博物館 / 編集	1994	F213/10ト
とくがわ ごてん ふ ちゅう 徳川御殿@府中 ふ ちゅう し きょう ど もりはくぶつかん 府中市郷土の森博物館ブックレット 19	ふ ちゅう し きょう ど もりはくぶつかん へんしゅう 府中市郷土の森博物館 / 編集	2018	F213/10ト
いしづみ そうし 草紙 る ぼう かた べ かい てい ばん 路傍の語り部たち 改訂版	ふ ちゅう し ぶん か ぶ ぶん か しんこう か 府中市文化スポーツ部文化振興課 / へん 編	2010	F29/1
ふるさとの ざか ふるさとたんぼう 坂 ふるさと探訪シリーズ	ふ ちゅう し せい かつ ぶん か ぶ ぶん か じ ぎょう か へん 府中市生活文化部文化事業課 / 編	1985	F29/7
ふ ちゅう ちり 府中の地理ガイドブック	ふ ちゅう ちり へんしゅう い いん かい 府中の地理ガイドブック編集委員会 へん / 編	1986	F29/7
ふ ちゅう し ない きゅう めい ちょう さ ほう こく し ょ 府中市内旧名調査報告書 みち さか つか かわ せき はし な まえ 道・坂・塚・川・堰・橋の名前	ふ ちゅう し きょう いく い いん かい 府中市教育委員会	1985	F291.3/10/7
くらやみ まつり 祭	さわたり もりふみ ぶん 猿渡 盛文 / 文 あやべ よしお え 綾部 好男 / 絵	1998	F38/サ
むさし ふ ちゅう まつり 武蔵府中くらやみ祭 こく ぶ さい と し さ い けい 国府祭から都市祭礼へ ふ ちゅう し きょう ど もりはくぶつかん 府中市郷土の森博物館 ブックレット 20 新版補訂版 しん ばん ほ てい ばん	ふ ちゅう し きょう ど もりはくぶつかん へんしゅう 府中市郷土の森博物館 / 編集	2025	F386/10/A
ふるさとの ざか 坂 きょう ど えい ざう し り ょう 郷土ふちゅう映像資料	ふ ちゅう し き かく 府中市 / 企画	1896	FP16.7/7

*それぞれの地図は、[国土地理院のウェブサイト \(https://www.gsi.go.jp/\)](https://www.gsi.go.jp/) から引用・加工をしています。

さがしている本が見つからない時は、
図書館の人に聞いてみよう。



「府中の坂」 こども府中はかせ No.15
2026年3月発行
府中市立図書館 編集・発行
<https://library.city.fuchu.tokyo.jp/>

